



図書館報

SEINAN GAKUIN
UNIVERSITY
LIBRARY BULLETIN
2016. April No.180



新入生にイチ押しの1冊

1 仙厓遺逸(その三)

図書館長 古田 雅憲

2 ブックレビュー

「世界を変えた手紙」副学長 経済学部 経済学科 教授 中馬 正博

「芸術と科学のあいだ」企画課 課長 藤丸 孝幸

「ユダヤ人大富豪の教え: 幸せな金持ちになる17の秘訣」

国際文化学部 国際文化学科 卒業生 金森 有紀

「100円のコーラを1000円で売る方法」経済学部 国際経済学科 4年 田村 綾

3-4 新図書館建設に向けて

第6回 自動書庫と資料検索 図書情報課 副課長 山下 大輔

5-6 データベース紹介

世界の新聞から 図書情報課 坂本 里栄

7 蔵書ギャラリー no.21

『萬國公法』法学部 国際関係法学科 教授 古賀 衛

文化14(1817)年8月9日、定助なる里人が仙厓さん(当年68歳)の許を訪ねてきた。聞けば「さる7月23日、暑氣払いにと遊んだ砂浜で仏様を掘り出しまして。ぜひお手許で供養していただきたく持参した次第」と言う。揮するに丈一尺四寸(42寸)、容顔円満にして秋月のごと凛とした、いかにも由緒ありげな観音様だった。実はその一週間ほど前、思えば不思議な兆しがあった。香の支度に木を割くと、中から観音様そっくりの核が現れたのだ——この話は、出来事から1年余り後に仙厓さん自身が書いた「観音大士金像出現記」(*1)の梗概である。二度の顕現に与つたと昂揚する仙厓さんの笑顔が目に浮かぶようだ。

その出来事より3年前(文化11年)の春のこと。聖福寺住持を辞して2年半、ようやく寺務の多忙から解放された仙厓さんは初めて竈門山(かまどやま、筑紫野に聳える宝満山の別名)に登つた(*2)。早くから観音様を篤く信心していた仙厓さんには待望の登山だった——というのも宝満山は古くから知られた観音霊場だったから。開山・心蓮上人にまつわる口伝によれば、天武2(673)年、上人が山中で修行していた折り、山容にわか鳴動したかと思えば天女が現れ、自ら玉依姫(たまよりひめ、海神の娘・神武天皇の母)である旨を告げたとする。その霊験あらたかな山頂に営まれた一社が宝満宮竈門神社の始まりである。おそらくは水分神(みくまりのかみ、山から流れ出す水を司る)として原初的な水神・海神の神格が宝満山に備わっていて、そこに海神の娘としての玉依姫が重ねられ、さらにその本地としての観音信仰が派生したのだろう(*3)。

仙厓さんは自らもまた玉依姫・観音様の示現に与りたいと願いつつ、



※図版…福岡市美術館蔵(石村コレクション)「観世音菩薩像」(9-B-14)

山路を踏み分けて行ったに違いない。そして実際、山頂の奇岩・竈門岩の間から玉依姫の天翔る姿を幻視した——その感銘を「竈門山に登る」と題して「竈門の丹穴は蒼穹に逼(せまり)玉女神は天路の通に遊ぶ 大士は垂蹤す三昧力 雲は開く二十五儂宮」と賦している(*4)。

その折りの印象が鮮烈だったのだろう、仙厓さんは翌年の春にもまた登った。今度は親友・崇福寺の曇栄(どんねい)も同道した。きっと仙厓さんが強く誘ったのだ。もともと曇栄は途中で足を痛めてしまったが、仙厓さんはいえ薄情なことに親友を置いて、ただ一人で山頂を目指した。そして再び奇瑞を感得した——その折に述した偈頌に「玉姫の降神するときには山谷鳴りて振動す心蓮の登座するときには天華飛びて繽紛たり」と言う。その文言は今、頂上付近の馬蹄岩に刻まれている。

宝満山の神様は、初めて登った人には「よう来たなあ」、二度目には

「また来たことや」、三度目には「なんべん来るとか」と呆れておっしゃるのだと博多町衆の間では言うそうだが(*5)、仙厓さんも大いに呆れられたくちだった。というのも、翌年には古希を迎えようかという文化15(1818)年の春、三度目の登山を行っているのだから。その健脚と「山のぼせ」には神様ならずとも呆気にとられる——そんなに玉依姫・観音様に逢いたかったか。

道理で仙厓さんは観音図をたくさん描いたのだ(*6)。もちろん初めて宝満山に登った年(文化11年)にも描いている(九州大学文学部蔵「白衣観音図」)。興味深いのはその画賛である。「他人を益せんがために起こすならば喜怒哀楽の心みな大慈悲となる おのれを益せんがために起こすならば慈悲善根の心みな悪業となる 善と悪とは唯一心の変なり 其の一心とは何ぞ 南無大慈大悲観世音菩薩」とある(*7)。仙厓さんにとって、宝満山に登って観音様に出逢うことやそのお姿を描き留めることは、まずは「他人を益せんがため」だったのだ。

今回は『仙厓 石村コレクション』(*8)から「観世音菩薩像」を掲げさせていただいた——満月のような輪光を頭上に負い、やわらかな白衣をすっぽりとまとって、ただただ静かに岩座に座していらっしゃる。水瓶や楊柳など観音図にお馴染みの品々はすべて省かれている。実に簡潔な表現である、が、それゆえにこそ、お姿から発せられる静けさと慈悲の深さが見る者の心の内にすつと届くのだろう。立派な絹布に描かれていることを思えば、たぶん仙厓さんは富裕な町衆某に頼まれて、その家人の結縁のために筆を執つたのだ。まさしく「他人を益せんがため」に描いた一葉である。とはいえ、そのお姿からは「誰々のために」などこのこだわりは微塵も感じられない。仙厓さんは、ただ静かにそこにいらっしゃる彼/彼女の面差しを、もはや誰のためということもなくただ無心に描き留めたのだ。

さて定助が持参した観音様だが、仙厓さんは供養のために台座と厨子をこしらえた。揃って聖福寺の宝として伝わっているが、実はその台座の背には亡き父母の戒名が刻まれている。その観音像は仙厓さんにとって、実生活では縁薄かった父母を追慕する縁でもあったのだ。とすれば、石村の観音様にもまた——その慈顔を無心に描きながら、仙厓さんは父母の面差しをふつと思出すこともあったかしれない。そんなことを思わせるほど穏やかで温かな図像である。

参考文献

- (*1) 出光美術館編『仙厓』平凡社、1988(大型本(開架2階)721/7/18)に影印あり。
- (*2) 衛藤吉則、石上敏、村中哲夫共著『仙厓』西日本人物誌8、西日本新聞社、1998(開架2階 281/08/28-8)
- 出光美術館編『仙厓さんと九州名所めぐり 和尙の筑前散歩』出光美術館、2004
- (*3) いわゆる本地垂迹説では玉依姫は観音菩薩の化身と理解された。宝満山の歴史や信仰については下掲書などに詳しい。
- 太宰府市教育委員会編『宝満山総合報告書 福岡県太宰府市・筑紫野市所在の宝満山に関する文化財の総合報告(太宰府市の文化財、第118集)』太宰府市教育委員会、2013(開架2層 219/105/68-118)
- 九州国立博物館・九州歴史資料館編『山の神々 九州の霊峰と神祇信仰』九州国立博物館、2013(開架4階 706/9/124-46)
- (*4) 広瀬正利『捨小舟 仙厓和尚』文献出版、1998(開架4階 911/152/20)に注がある。
- (*5) 福岡市美術館編『仙厓 石村コレクション』石村萬盛堂、2005(開架4階721/7/21)
- (*6) 上掲(1)書。出光美術館に蔵するものだけでも20葉前後はある。
- (*7) 福岡市美術館開催の「仙厓展」(2015.12.01~2016.01.31)でも公開されたので、御覧になった方もあるかしれない。
- (*8) 上掲(5)書。



新入生にイチ押し[☆]の1冊



『世界を変えた手紙』

キース・テプリン著
岩波書店 2010年
(開架3階 417/1/72A)
副学長
経済学部 経済学科 教授
中馬 正博



確率という言葉を知りただけでぞっとするという方でも、お御籤で大吉を引きたいとふと思う時、偶然性の中に世界を操る神様の意思を見出したいというような気持ちが潜んでいることを、なんとなく感じ取っていらっしゃるのではないのでしょうか。

本書のタイトルとなった手紙とは、パンスで有名なブレス・パスカルと高名な数学者ピエール・ド・フェルマーが、1654年の夏から秋にかけて取り交わした往復書簡のことです。彼等がその中で取り上げた話題は、ゲーム中断に伴う分配問題として知られ、フランス上流階級のギャンブラーで、算術に懐疑的発言をするような自称数学者でもあったシュバリエ・ド・メレが、パスカルに挑戦的に提示したものです。これに対して2人の天才は、往復書簡の中で、各プレイヤーへの公平な分配額が、ゲーム中断時の状態を条件とする条件付期待値として求められることを示しました。

本書では、この2人の天才の往復書簡を、厳密に未来を記述して問題解決を図り、厳密には過去と現在しか記述できなかった当時の世界を一変させたものとして、高く評価しているのです。皆さんが本学で新たな学びを始めるに当たり、本書で新しい概念の生みの苦しみの一端を知ると、きっと勇気が湧いてくることでしょう。

『芸術と科学のあいだ』

福岡伸一著
木楽舎 2015年
(開架4階 704/0/322)
企画課 課長
藤丸 孝幸



タイトルに「科学」と書かれているからといって、理数系が苦手な人も心配は無用。著者の福岡伸一先生は生物学者だが、オランダの画家フェルメールの熱烈な愛好者でもある。この本は「芸術」と「科学」という、一見相反すると思われる分野のあいだの世界が、実は読み解き方によってとても興味深い考察ができるという題材を数多く示してくれる。その題材は絵画や写真といった一般的な芸術作品から、昆虫の標本や化石、果ては視力検査の「C」の文字やドアノブの形状まで、興味の対象は無限の広がりを見せ、心地よい深読みの世界が展開される。先生曰く、「科学とは、自然や宇宙について私たちが古くからなんとなく感得していたことを、より解像度の高い言葉で再発見する営みである」。

新入生の皆さんは高校までの学習で多くの知識を得てきたはずだ。これからの勉強ではこれらを互いに結びつけて教養にしなければならぬ。その過程で芸術と科学のあいだにある世界に美しさを見出すセンスも鍛えられるに違いない。「顕微鏡を覗いたら見えていたのは宇宙だった」という感性を身に付けられたら、とても素敵ではないか。この本にはそんな知のヒントがたくさん詰まっている。

『ユダヤ人大富豪の教え』 :幸せな金持ちになる17の秘訣』

本田健著
大和書房 2003年
(開架2階 159/0/369)
国際文化学部 国際文化学科 卒業生
金森 有紀



私がお紹介させていただく本は、著者である本田氏が渡米中に出会った大富豪のユダヤ人に、幸せなお金持ちになる方法を教わるというストーリー仕立てのものであります。しかし、私は「お金持ちになる」ためのビジネス的なノウハウだけではなく、「自分らしく生きる」ためのノウハウも教えてくれる本だと思います。

「人生には無限の可能性があるので、わたしたちはそれにまったく気づいていない」と本田氏は言います。大学に入学し、これまでは全く違う生活が新入生には待っているでしょう。そして、その4年間には無限の可能性があるので、これまでの受験生活と一変し、より自意識が必要な大学生活では誘惑もあれば、試練もあります。それをどう乗り越えるか、乗り越えないかはあなた次第です。後悔のない人生はありませんが、少しでも「自分らしい大学生活」を送って欲しいと思います。

また、大学は自分のやりたいこと、学びたいことを見つけるチャンスでもあります。学生でも出来ないことが沢山ある中でそのチャンスを見逃さないために、ぜひこの本を読んでいただきたい。そして、これから先、何か問題にぶつかった時は再度この本を開いてみてください。きっと心に響く言葉があるはずです。

『100円のコーラを 1000円で売る方法』

永井孝尚著
中経出版 2011-2013年
(開架4階 675/N14/2-1~3)
経済学部 国際経済学科 4年
田村 綾



4年間の大学生活を送った後、私たちは社会に飛び立ちますが、この本は社会人になる前に読んでおいたら将来何か役に立つことが1つでもあると自信を持ってオススメできます。あらゆるマーケティング理論がこの本には登場しますが、ただ理論を説明するような堅苦しいものではなく、登場するキャラクターの目線に立つストーリーを読み進めていくため、内容もとても理解しやすいです。社会に出たときのことを考えるのはまだ早いのではと感じるかもしれませんが、この本に書いてあることはこれから新入生の皆さんの多くが始めるであろうアルバイトの中でも活かされると思います。ほとんどの仕事には、常にお客様という存在がいます。よく顧客満足といった言葉を耳にしますが、満足度を高めようと顧客の要望に100%応えても実際は0点という、一見すると何が間違っているんだろう？と思うようなこともこの本には答えがあります。その他にも値引きの利点とその落とし穴や、新商品は必ずしも売れないのはなぜか？といった疑問が1つ1つ丁寧に説明されています。

経済や経営のことは難しいのではと感じている皆さんにも読んで頂きたい1冊です。ぜひ手に取って下さい。



図1:自動書庫内部イメージ

新図書館建設

に向けて

第六回

「自動書庫と資料検索」

図書情報課 副課長 山下 大輔

新図書館では、閉架書庫として、自動書庫が導入されます。対象となる資料は、新図書館7階に配置された、図1のイメージのような、巨大なコンテナ庫に収蔵されることとなります。これまで、原則として職員が探索してきた資料が、OPACから「出庫」ボタンを押すと、該当図書が格納されているコンテナが自動的にカウンターまで搬出されて

きます。収蔵能力は、約80万冊。現在の、本学図書館本館の全蔵書冊数は、約120万冊ですから、その巨大さを想像いただけると思います。今後50年間の資料の増加を許容できる計算です。

まずは、その特徴について、導入メーカーの金剛株式会社様に紹介いただきます。

金剛株式会社製自動書庫紹介

私たち金剛株式会社は図書館等の公共施設における設備のメーカーです。1947年の創業以来、熊本に本社を置きながら、全国へ専門性の高い製品を納めてきました。

今回ご採用頂きました弊社自動書庫『BOOK ROBO』は、図書館の出納作業の省力化を実現する製品です。要求のあった図書を含むコンテナを『BOOK ROBO』が自動的にクレーンでピックアップし、出納ステーションへ運びます。この間にかかる時

間は数分間。確実かつ迅速に、図書を借りたい人の元へお届けできます。

また、出納作業の省力化は、図書館職員の皆様が他の業務に配分できる時間の確保にも繋がりますので、より細やかなレファレンスや学修支援の実現にも貢献できます。近年の図書館には図書貸出だけでなくサービス面の充実も求められる傾向がありますが、そうしたニーズに応えられる図書館づくりをお手伝いできるのではと考えております。

さて、このように、請求から出庫まで、スムーズに行うことができ、様々なメリットがある自動書庫ですが、ご懸念のとおり、デメリットもあります。一番の問題は、職員（いざという時には、利用者自身）が書庫で直接資料を見ることができなくなることがあります。そのため、自動書庫へ入庫する資料選定基準の作成及び、資料検索方法の充実は今後の課題となります。

新図書館では、図書館で作成している目録データ（書名、著者名、出版社、ジャンル、分類番号等）に加えて、日外アソシエーツ（株）が提供している、外部データを取り込む仕組みを導入します。現在も導入済の、BookデータASP

サービスで、概ね1985年以降に出版された和書は、目次及び内容紹介データが挿入されます。また、新図書館では、これに加えてmagazineplus目次ASPサービスを導入する予定です。これにより、雑誌の該当巻号の目次情報について、OPAC上で確認が出来るようになります。まずは、このデータでカバー可能な範囲の資料を中心として、入庫する予定です。ただし、資料の性質、複本の状況、ジャンル、利用頻度等によって、自動書庫への入庫に向く資料、向かない資料が出てきます。そういった、事情へ対処していくことを目的として、今後も、資料検索ツールの充



図2: 出納ステーション

実を行っていくとともに、図書館職員によるサポートを充実させていきます。また、情報検索への道筋をまとめた、パスファインダーのようなツールを充実させていくことも検討しています。導入済の他大学での利用状況も参考にしながら、入庫資料の最終調整を行うと共に、2017年4月以降も、資料の利用頻度、利便性を最大限考慮しながら、入庫資料の調整を行っていきます。暫くの間、戸惑うこともあるかと思いますが、まずは、いろいろと検索、出庫を体験していただければと思います。

資料搬入時期

新図書館では、1階及び4階に出納ステーションを設置します。1ステーションの1日の搬入能力は、約2,000冊程度です。従って1日の最大搬入冊数は、4,000冊ということになります。2017年4月の新図書館オープンの際には、30万冊前後を入庫する予定です。

1日4,000冊ですから、最低でも75日が必要となります。平日だけを作業日とすると、3か月～4か月程度を要します。資料の移設は、2016年10月から開始しますが、自動書庫への入庫作業は、11月中旬から行う予定で、3月には完了する見込みです。

自動書庫小話



図3: Joe and Rika Mansueto Library

近年、日本国内では、自動書庫の導入館が増加していますが、米国シカゴ大学には、世界最大規模の自動書庫を備えた、Joe and Rika Mansueto Libraryがあります。地下に書庫が建設され、地上部分は、ドーム状の閲覧席になっています。私は、2014年に訪問し、書庫内部まで視察をさせていただきました。図書館の名前から推察できますが、卒業生の多額の寄付により、建設された建物です。大学の新しいシンボルの一つとして、世界最先端の研究を支えています。インターネット上に自動書庫の紹介や動画も掲載されていますので、ぜひご覧ください。

【参考URL】

Joe and Rika Mansueto Library
<http://mansueto.lib.uchicago.edu/>

DATABASE

データベース 紹介

今回は、外国新聞にスポットをあてます。国内新聞は、よく利用されていますが、外国新聞は、少しハードルが高いようで、利用実績が少ないのが実情です。海外の事情を調査するためには、必要なツールですので、ぜひ体験してみてください。

世界の新聞から

図書情報課 坂本 里栄

アクセス方法： 図書館HP>データベース>契約データベース:新聞記事

New York Times: 1851~current (ProQuest) / The Times: 1785~2009 (The Times Archive), 1992~current (ProQuest)

2016年1月10日にデビット・ボウイが亡くなった。第一報を知ったのは、twitterだった。年末には、What did bowie do at age? (<http://supbowie.com/>)という自分の年齢を入れると、その年齢のときのデビット・ボウイの業績が示されるサイトがSNSのtwitterやFacebookで話題になっていたし、誕生日の1月8日にはアルバム『★(Black Star)』をリリースしている。デビット・ボウイは、私にとって、大ファンでずっとその軌跡を追いかけているというほど熱心ではないが、高校時代を彩る思い出のアーティストの一人として、気になっていた存在である。新曲の情報など定期的に目に耳に触れていただけに、訃報を聞いて、信じられない気持ちでいっぱいになった。思わず、デマではないかと手に持ったスマートフォンで検索してしまった。

ニュースをインターネットのニュースサイトやSNSで知ることが多くなっている。先に挙げたニュースは最近の事例だが、他にも、イチローの今季キャンプインのTシャツはどんな柄なのかにワクワクしたり、安打記録に一喜一憂したり。2012年に『華氏451』で有名なSF作家のレイ・ブラッドベリが亡くなった時も、もう二度と新作を読むことがない寂しさに、青春の1ページが終わったように感じたりもしたものだ。

世の中の出来事へのファーストタッチは、テレビやラジオといった映像・音声メディアが長く主流であった。そして、速報性とアーカイブを合わせ持ったハイブリット型のインターネットが誕生し、普及していく中で、速報性という点でインターネットにその座を譲り渡した。その中で、現在でも新聞は、毎日発行されるという定期性、各社の取材等による質の担保、そして、何よりも過去の蓄積という

アーカイブ性において、独自の立場を保持していると思う。大学図書館では、教育・研究への様々な足がかりとして、新聞を整備している。今回は、外国新聞に注目して、紹介してみたい。

まず、図書館で購読している海外の新聞にどのようなものがあるかご存知だろうか。

新聞原紙で言えば、1階の新聞コーナーには、英語の新聞だけでもJapan Times, International New York Times, Financial Times (FT), Guardianがある。2階にはフランスの高級紙Le Mondeもあるし、閉架書庫には、ドイツの週刊新聞で解説記事に定評のあるDie Zeitもある。

一般紙であれば、The New York Times (NYT)とThe Times、金融紙であれば、The Wall street journalとFTといったように、英米取り揃えて整備している。

また、データベースでの提供もある。NYTは1851年から最新の記事まで見ることが出来る。イギリスのThe Timesは、1785年から最新の記事までが閲覧できる。タイムラグはあるが、金融紙のFTもアグリケータ経由(*1)で利用可能だ。

特定のテーマを時系列で探したり、同時代評を調べたりするには、新聞原紙より検索性に優れたデータベースが便利だ。外国新聞のデータベースは、NYTとThe Timesを中心に整備を進めてきており、現在は創刊年から最新号までがデータベースで利用できる。

NYTは、1851年に創刊されたアメリカの代表的な新聞である。「記録の新聞」として広く知られており、同紙の記者によるピューリッツァー賞の受賞歴も多く、国際情勢の報道では質量ともに定評がある。

NYTには先に挙げたSF作家のレイ・ブラッドベリの記事(*2)もある。日本では、それほど大きく取り上げられなかったが、ブラッドベリがいかに多くの国で愛されていたか、どれほどの情熱を持って執筆を行っていたかを垣間見ることが出来る。

2013年には火星に探査機MAVEN(メイブン)が飛んだ。2011年11月に打ち上げられた無人火星探査車Curiosity(キュリオシティ)は、2012年8月に火星に着陸し、今も観測状況を地球に送信している。ブラッドベリは火星に縁付いた作家であるからRay BradburyにMarsを加えて検索してみると、また面白い記事が見つかるかもしれない。このように、世の中の出来事を追いながら、日常的な興味を、より掘り下げていくことが、広い意味での学習へと繋がっていくことになる。

柔らかい記事を例に挙げたが、もちろん、王道の政治記事もある。今年は大統領選挙の年だから、日本での報道と比べてみると興味深い。現段階では、各候補が善戦している。現地の世論はどうなっているか、最新の情報は自分で調べてみて欲しい。

続いて、The Timesを見てみよう。掲載する内容で新聞を分類すると、政治、経済や国際問題など公的なニュースの報道や論評に比重を置いた高級紙と、娯楽的な内容を多く取り扱う大衆紙に分かれる。The Timesは、1785年に創刊されたイギリスの高級紙だ。思想は中道だが、論調はやや保守の傾向にあり、政治、経済、社会、文化といった高級紙ならではの記事構成となっている。特に、海外情勢の発信と社説の質には定評がある。歴史的にも古いことから、歴史上の人物や出来事をテーマに記事を探すと、思わぬ発見がある。

例えば、1900年10月に起きた義和団事件では、当時北京の特派員だったジョージ・アーネスト・モリソンによる北京公使館街での籠城のレポートが"The Siege Of The Peking Legations."(*3)というタイトルで13日と15日に掲載されている。公使館街の平面図も掲載されていて、当時の位置関係が視覚的に示されている歴史的に興味深い記事だ。

少し脇に逸れるが、北京の表記がPekingなのも面白い。最初、受験勉強などで習ったBeijingで探していて、「No Results」が続いて心が折れそうになった。よくよく調べてみると、1900年当時は、ピンイン表記ではなかったのだ。また、義和団も英語でどう表記するか分からなかったのだから、辞書を引いてみた。The Boxerと表記することが分かった。義和団の母体が武術集団だったかららしい。外国新聞を読んでいると、本筋ではない驚きや発見も得られる。

さて、その後の歴史を紐解くと、1902年に日英同盟が結ばれたり、1904年の日露戦争が勃発したりと激動の時代に繋がるのだが、1900年から日露戦争の終結する1905年に期間を絞って、Japanやallianceのキーワードで社説を確認してみたい。当時のTimes紙の論調は、イギリス世論に影響を与え、1902年の日英同盟につながったともいわれているが、確かに、随所にみられる日本への言及は好意的に取れる。また、記事を追うなかで、記事になるまでの特派員の動きを考えてみると、まる

で外交官のような動きで、その背景にあるドラマを想像するとまた興味深い。(*4)

息の長い新聞は、歴史的な事例にも影響を与えていて、当時の世相を読み取る材料にもなる。

欧米の新聞社は、通信社との役割分担が明確であるため、速報性は国内紙ほど重要とされていない。第1報は通信社が担い、第2報を新聞やニュース雑誌がカバーする位置付けとなっている。欧米の新聞を使う場合には、社説やある程度まとまった取材記事を中心としているという特徴に注目して情報収集すると良いだろう。

今回は、データベースのコーナーなので、英米中心の紹介となったが、原紙購読に広げるとフランス・ドイツ・ロシア、アジア圏では中国・台湾とその対象は広がる。外国新聞のデータベースをきっかけとして、興味を広げて欲しい。

私も、デビット・ボウイを追悼して、新聞記事を探してみる。

ボウイも月に、宇宙に、イメージがあるアーティストだ。NYTの2016年1月12日の記事(*5)を読むと、ボウイの俳優デビューとして有名な『The Man Who Fell to Earth(地球に落ちてきた男)』は、2015-16年のオフブロードウェイで『Lazarus』として続編が舞台化されているとのこと。制作にボウイも携わっており、劇中では過去のヒットナンバーだけでなく書き下しの新曲もある力の入れようだ。現地で見るとはハードルが高いが、評判はどうなのだろうか、後日DVD化しないかなどか、検索の手は止まらない。

(*1) ProQuest Research Library

(*2) Jonas G., 2012. Brought mars to earth with a lyrical mastery. NYT, 07 Jun. A1.

(*3) The Siege Of The Peking Legations. The Times, 13 Oct. 1900 : 5+.

The Siege Of The Peking Legations. The Times, 15 Oct. 1900 : 3+.

(*4) 例えば、以下の記事ではモリソンからの情報であろう内容が随所に見られる。日本史が詳しいわけではないが、当時大国だったイギリスの新聞が、日本のことに記事を割いて言及していることも興味深い。Our Peking Correspondent makes the interest-. The Times, 01 Mar. 1901 : pg. 9

The reputation of our Peking Correspondent as. The Times, 04 Mar. 1901 : 9.

(*5) Pareles, Jon., 2016. David Bowie, Star Whose Fame Transcended Music, Dies at 69. NYT, 12 Jan. A.24.

<参考文献>

日本貿易振興会編『世界の新聞・雑誌ガイド』改訂版, 日本貿易振興会, 1982(開架 070/31/4-2)

Merrill, John Calhoun 著, 山室まりや訳『世界の一流新聞』早川書房, 1970(開架 070/2/2)

江尻進ほか著『ヨーロッパの新聞』上, 日本新聞協会, 1983(開架 070/23/2-1B)

『萬國公法』

[貴重書庫(5階) 329/0/34-1~6]

「船 どの衝突事故は、世界共通で定められちゅう公法で決着すべきではないでしょうか。」

5年前に放映されたNHK大河ドラマ「龍馬伝」で、坂本龍馬は、こう言って懐から1冊の本をとり出した。1867年瀬戸内海で、龍馬率いる海援隊の運搬船「いろは丸」と紀州藩の「明光丸」が夜間に衝突、いろは丸が沈没した。賠償責任をめぐる談判で、龍馬が持ち出したのは『萬國公法』であった。万国公法は、後に国際法と呼ばれるようになった。

激しい交渉の末、龍馬は8万3千両余の賠償金を得た(支払は7万両といわれる)。テレビドラマ

には脚色がつきものだが、この事件

で龍馬が万国公法を利用したこ

とは史実である。この時使わ

れた万国公法は、アメリカ

の国際法学者ホイートン

の著書Elements of Inter-

national Law(初版1836

年)をアメリカ人宣教師が

翻訳して、1864年に上海で

出版されたもので、外国との応

接に悩んでいた幕府が200冊を

輸入し諸藩と幕府の要人に配ったとい

われる。出版されて3年も経たないのに、龍馬がこれを

読んでいたということは驚きであるが、龍馬は海軍操練所の恩師・勝海舟からこの本を貰っていたともいわれる。

このテレビドラマを見た後、ネットでこの本の所在を調べていたら、所蔵図書館のリストで「西南学院大学」の名が目飛び込んだ。西南にもある!翌日図書館で探したら、暗い閉架書庫の棚に他の本と並べて置いてあった。中身は漢文で、木版の墨刷り6冊組本(図1)。しかし、綴じ紐は切れほこりをかぶってボロボロだった。ドラマで龍馬が胸から取り出した本とは似ても似つかぬが、確か



【図1】木版の墨刷り6冊組本

に『萬國公法』である。もし保存状態が良く、図書館のスタンプが押してなければ、数百万円はするだろう。しかも、この6冊と原本となるホイートンの著書の両方を持っている大学図書館は10校もない。このような稀少本を無造作に置いておくとどういふことか、と早速図書館事務室に通報した。そして、今はしっかり箱に入れて貴重書として大事にしまっている。写真は、そのセットである。

テレビドラマでは、万国公法を持ち出した龍馬に対して、紀州藩の勘定奉行が「だが聞か、誰が世界の法を以って裁くというんじゃ。この長崎に、いや日本国にそのような裁きを下せる者など居らん。」とい

う。そこで、龍馬がイギリス海軍

の提督を招き、海難審判が行

われる。この部分は、私が

担当している国際紛争解

決法の性質を示すため

にしばしば使っている。

法律があっても、それを

適用する手続がなければ

法の目的は実現されな

い、という手続法の考え方を

示すために。

このドラマは法律学を学ぶ上でもつ

とも大切なことを示唆していた。紀州藩と脱藩浪士集團の間でも法を適用しようとしたということである。力の強い者も弱い者も等しく法に従わなければならないということ。これこそ法の理念＝「法の支配」である。

最近の国際社会では、法を無視して力を通そうとする風潮が現れつつある気がしてならない。いろは丸事件で本当に偉かったのは、力で押し切ろうとしなかった紀州藩だったのかもしれない。幕末の日本人はそれだけの分別を備えていたことに思いをはせて、この本が西南にあることを誇りとしたい。

【図2】漢文で書かれた万国公法

編集後記

厳しい寒さが和らぎ、日差しが急に暖かくなってきました。心地よい陽に照らされながら今にも満開になりそうな桜の木を見て、日本に生まれてよかった、なんてゆったりした気持ちに浸っています。新図書館にはブックツリーを幹とした「知の樹」が植えられます。来年は桜だけではなく、新たな西南の知の樹が芽吹くことを、ぜひご期待ください。

(N.Y)

西南学院大学図書館報 No.180

2016(平成28)年4月28日発行

編集 図書館報編集委員会

発行 西南学院大学図書館

〒814-8511 福岡市早良区西新6丁目2番92号

TEL (092) 823-3426

<http://www.seinan-gu.ac.jp/library/>

図書館報バックナンバー(No.153~)も上記サイトに掲載しています。